

## 調査報告書

- 1 とき：2014年2月10日
- 2 行先：名古屋港ガーデンふ頭（掃海艇「つのしま」一般公開）
- 3 参加者：山口清明、政務活動補助員（尾関）
- 4 主な内容
  - ・海上自衛隊の掃海艇「つのしま」が2月9日～11日まで名古屋港に入港、10日にガーデンふ頭で一般公開が行われた。



地下鉄からの案内看板



いつものようにテントがお出迎え



戦闘食も展示

- ・これに先立ち2月7日に「海上自衛隊掃海艇「つのしま」の名古屋港入港に関する申し入れ」(1.自衛隊艦船の名古屋港入港を拒否すること。とりわけ軍事訓練のための入港は断固拒否すること。2.ガーデンふ頭を軍艦の一般公開に利用させないこと。自衛隊への勧誘など乗組員の休養・補給以外の目的での港湾施設の使用を認めないこと。3.日本国憲法を厳守し、憲法9条をあらゆる港湾行政に貫き、活かすこと)を行った。
- ・今回は、伊勢湾で行われた自衛隊の機雷戦訓練(2月1日～8日)直後の入港。この機雷戦訓練は、掃海母艦×2隻、掃海艦×3隻、掃海艇×16隻、掃海管制艇X2隻)に航空機1～2機(MH-53E)も加わり、掃海訓練のみならず機雷敷設訓練まで実施されたもの。
- ・「つのしま」は平成12年3月に「すがしま型」掃海艇の3番艇として就役。機雷を搜索、処分する



名管に申し入れ



つのしま



ため新型の情報処理装置、機雷探知器、機雷処分具及び自動操艦装置を搭載。また、作戦海面における静粛化（音響管制）の強化のために電気推進機を2基搭載。掃海艇は護衛艦や一般商船とは違って、磁気を感じて爆発する機雷（磁気機雷）から艇の安全を確保するため、船体は、木製、エンジン等はアルミ合金等を使用することにより、磁気を帯びないような設計となっている。

《特徴》

- ★機雷掃討能力の向上（新型武器の採用）
  - ・ 情報処理装置（NAU11S-M）
  - ・ 機雷探知機（Type-2093）
  - ・ 機雷処分具（PAP-104, MK5）
- ★定点保持/低速度運動の性能向上
  - ・ 可変ピッチプロペラ
  - ・ シリンダ舵
  - ・ バウスラスト
  - ・ 自動操艦装置
- ★水中放射雑音低減
  - ・ 主発電機（ディーゼル）上甲板に配置
  - ・ 補助電気推進装置の採用
  - ・ プロペラ回転数の低減

主要目	
基準排水量	510.0t
全長	54.00m
最大幅	9.40m
深さ	4.20m
主機	ディーゼル機関 2 基・2 軸
	補助電気推進 130kw × 2
速力	14kt(約 26km/h)
乗員	約 37 名
兵装	20 ミリ機関砲 × 1
	掃海掃討装置 1 式

- ・ パンフレットによれば「掃海部隊の主な任務は、わが国の平和と独立を守り国の安全を保つため、我が国周辺海域において、海上交通を保護する事にあり、各掃海部隊の艦艇は、港湾及び航路に敷設された機雷を排除し、通行船舶の安全を確保するために日夜訓練している」とある。



カレンダーを無料配布

- ・ 艇名の由来：掃海艇の名前は、日本の島の名前の中から選び命名される。「つがのしま」は山口県北西に位置し、豊北町の北西 1.5km の海上にある「角島」に由来。この島は、岬が牛の角に似ていることから角島と名付けられたと伝えられている島で、島の全域が県立公園に指定されている風光明媚な島です。

《艦内の様子など》

- ・ 掃海艇の3つの特徴
  - ① 掃海艇は木製：機雷には、船が持つ磁気に反応して作動するものもあり、掃海艇の船体は磁気を帯びない木材で作られています。

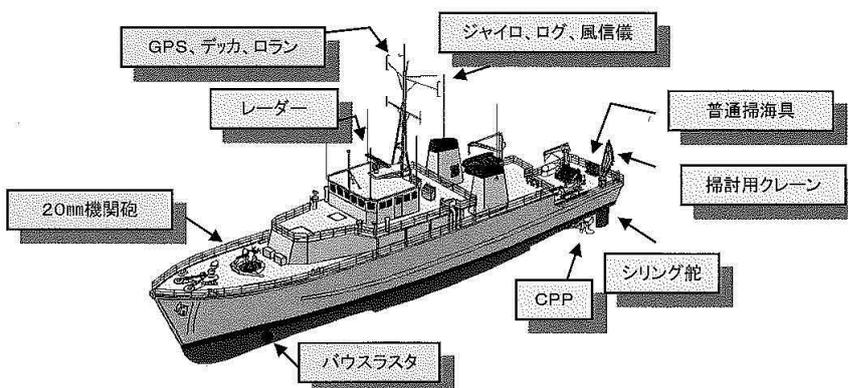
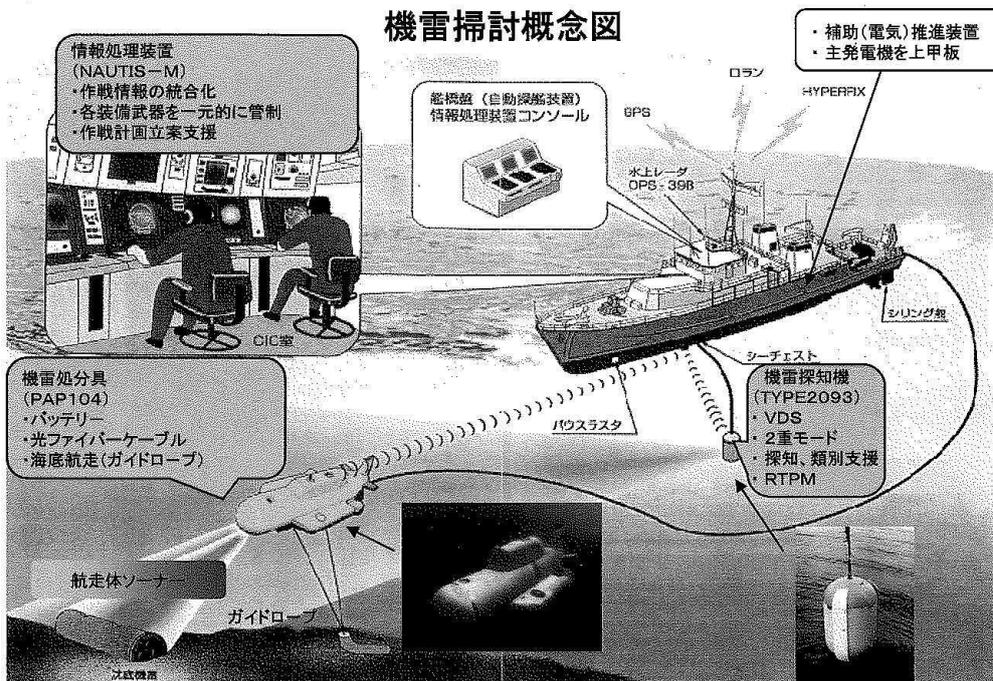
- ② 振動を抑えるための特殊な工夫：音響地雷への対策で、掃海艇では、エンジンや発電機などを防振ゴムの上に載せたり、天井から吊り下げた特殊な架台に載せたりして、外部へ振動を伝えない工夫をしています。
- ③ 掃海艇の喫水は他の船の半分の浅さ：水中の地雷に船体が触れないよう、掃海艇の喫水（船体の沈む深さ）は、かなり浅くなっています。またこの造りで航行中の水圧変化が少ないため、水圧に反応する機雷を避けることができます。同じ海上自衛隊の護衛艦よりも1～2mほど、輸送艦と比べると3mも喫水が浅い。

・ 掃海具



機雷処分具

掃海具巻揚げ装置





ブリッジ



平和委員会の調査



山口議員



浮いた機雷を破壊する 20 ミリ砲



掃海具



休館日の水族館